

令和5年度 学 校 評 価 報 告

草加市立 栄 中学校
(令和6年2月1日作成)

1 学校教育目標	
○校訓 「自主」「自律」「親和」「協力」 ○学校教育目標 ・自ら学び考え、行動する生徒 ・豊かな心を持ち、思いやりのある生徒 ・健康で、たくましい生徒 ○目指す学校像 ・一人一人がかけがえのない存在として大切にされる学校 ・人権や生命が尊重されお互いを認め合う「いいとこ探し」の学校 ・生徒が「通いたい」保護者・地域が「通わせたい」学校	
2 重点目標・努力目標	3 前年度の成果と課題
○幼保小中一貫教育の推進 ○地域と共にある学校づくりの推進 ○学年・学級経営の充実 ○学習指導の充実 ○豊かな心を育む指導の充実 ○積極的な生徒指導・教育相談の推進 ○健康な体づくりの推進 ○特別支援教育の推進	成果 ○月に1回のいじめ防止対策委員会を実施し、いじめの認知・対応・見届けまで組織的に対応することができた。 ○昨年度に比べ、充実した学校行事を実施できた。 課題 ●自ら進んであいさつができる生徒の育成。

4 評価表 ※評価基準 [A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	<ul style="list-style-type: none"> 学校経営目標、方針 校務分掌組織 適所への適材配置 職員会議等の運営 予算の執行・決算、監査等 	A	○学校教育目標・グランドデザインに沿って、組織的に連携した学校運営ができた。 ●校務分掌組織を業務量や難易度に応じて分類し、負担の均一化を図る。
	②研究・研修	<ul style="list-style-type: none"> 研究組織、計画、実施 校内研修の推進 授業改善への取組 校外研修会への参加 人材育成 	A	○いのちの学習等、外部人材の活用を行い、校内研修を計画的に実施することができた。 ●次年度の発表に関する研修を計画的に実施し、教職員の共通理解を図る。
	③保健管理・安全管理	<ul style="list-style-type: none"> 保健計画、安全計画 環境衛生の管理 健康観察、安全点検 緊急事態発生時の対応 危機管理マニュアルの作成・活用 	A	○避難・防災訓練や避難所設営訓練を通して緊急事態発生時の対応への取組ができた。 ○計画的に全学年でいのちの学習を実施できた。 ●学年の計画といのちの学習の時間を、年間を通して計画的に組み込む。
	④情報管理・施設設備管理	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報の管理、保護 施設設備の管理と有効利用 	A	○校内の情報管理規定を年度当初から周知し、適切に個人情報の管理を行った。 ●タブレット使用におけるネットモラルの授業・集会等を実施する。
	⑤地域との連携 開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> 学校情報の発信 学校公開の実施 学校運営協議会の推進 地域、校種間連携 PTA活動の活性化 	A	○ホームページの更新による情報発信に加え、校外行事等においては連絡メールシステムによって進行状況を発信できた。 ●避難所設営市民防災訓練等を活用し、地域との連携をさらに深める。
	⑥幼保小中を一貫した教育	<ul style="list-style-type: none"> 目指す子ども像の共有 15年間を通じたカリキュラムの編成 一貫教育推進のための組織づくり 	B	○幼保小中一貫教育推進委員会を計画的に実施し、自己肯定感・自己有用感を育む活動に取り組むことができた。 ●研究テーマの内容や柱を意識して教職員が取り組めるよう、分かりやすく周知する。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> 15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 教育計画の作成 教育活動の評価 目標、方針の周知 授業時数の配当、確保 	A	<p>○学校教育目標の達成度について、教職員・保護者・生徒とも「当てはまる」「よく当てはまる」が8割以上であった。</p> <p>●授業時数の確保に向け、各教科と連携し、計画的に教育計画を作成する。</p>
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 	A	<p>○指導訪問や授業研究会や校内研修を通して授業改善に取りくんだ。</p> <p>○助産師講演会等、外部人材を活用した教育活動が実施できた。</p> <p>●評価・評定について更なる研修を実施する。</p>
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の作成 各教科との関連 道徳的実践力の育成 家庭、地域社会との連携 いのちの教育の推進 	B	<p>○発達段階に応じ、全学年でいのちの学習を計画的に実施できた。</p> <p>●ローテーションで道徳を実施する際、教職員の動静を丁寧に把握して計画する。</p>
	④特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 学級活動、学級経営 学校行事 生徒会活動 	B	<p>○運動会や合唱コンクール等の学校行事についての話し合い活動が実施できた。</p> <p>●日常における学級の問題点や課題等をクラスで話し合う機会を計画的に設ける。</p>
	⑤「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導内容の充実 指導方法の工夫と改善 評価の工夫 地域の人材・物的資源の活用 	A	<p>○避難所設営市民防災訓練を通して、地域の人材を活用することができた。</p> <p>●PTAやボランティアセンターと連携し、地域との関わりを通じた教育活動を推進する。</p>
	⑥生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な生徒指導 問題行動への対処 教育相談、生徒理解 いじめ防止対策 保護者、地域、諸機関との連携 	A	<p>○生徒指導部会や教育相談部会、いじめ防止対策委員会を活用し、生徒指導上の問題に組織的に対応できた。</p> <p>●教育相談における支援が必要な生徒が多い。</p>
	⑦キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> 組織的なキャリア教育 指導方法の工夫と改善 啓発的経験の充実 進路情報の収集・活用 職場体験活動 	A	<p>○卒業生と進路について語る会を実施し、身近な進路としての上級学校について理解を深めることができた。</p> <p>●職場体験活動に代わるキャリア教育の充実。</p>
	⑧特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画、支援計画 指導方法の工夫と改善 通常学級との交流 諸機関との連携 校内支援体制の整備 	A	<p>○兄弟学級との交流や、赤とんぼ祭等を通して、学校として情報共有しながら個に応じた支援が展開できた。</p> <p>●相談員・養護教諭・SC・SSWと一層の連携を図りつつ、支援を充実させていく。</p>
	⑨学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画、支援計画の作成 図書館補助員の活用 諸機関との連携 図書館の整備 図書館利用の工夫 	B	<p>○学校司書と連携し、蔵書の管理を丁寧に実施し、図書館の整備を行った。</p> <p>●貸出・返却の手続きを生徒が確実に実施できるよう、見守り指導を行う。</p>
	⑩情報教育	<ul style="list-style-type: none"> 教育計画の作成 校内研修の充実 ICT機器の積極的な活用 情報モラル教育の推進 	B	<p>○タブレットを授業内で積極的に活用し、生徒の充実した学習につなげることができた。</p> <p>●不適切な使用が起きぬよう、情報モラルの向上や情報管理の徹底に力を入れる。</p>
	⑪人権教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の策定 各教科との関連 人権感覚の育成 校内研修の充実 	A	<p>○人権作文、標語の作成に加え、教職員の意識を高める校内研修を実施できた。</p> <p>●生徒への声かけや指導の場面における研修を通して、人権意識の更なる向上を図る。</p>

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
Ⅲ 特色ある学校づくり	①地域に開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> 外部人材の活用 保護者との連携 関係諸機関との連携 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○学校運営協議会を計画的に実施し、客観的な視点の意見を聞くことができた。 ○PTA役員会を通して、60周年記念品のデザイン等、連携を深めることができた。 ●HP等の内容を充実させ、効果的な周知に努める。
	②幼保小中一貫教育	<ul style="list-style-type: none"> 15年間の系統的教育の実施 異校種間交流の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○幼保小中一貫教育推進委員会を計画的に開催し、小中連携で挨拶運動を行うなど、交流を進めることができた。 ●校区で連携し、目指す15歳の姿を共通理解し、具体的な目標に向けた取組を実践する。
	③自己肯定感・有用感を高める教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 授業等での計画的な実施 互いを認めあうことのできる学級づくり、諸活動の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の自己評価で、自己肯定感に関わる肯定的な回答が90%を上回っている。 ●人前で発表することへの課題を抱えている生徒の自己肯定感・有用感を得られるような授業展開を進める。

5 総合評価 (学校関係者評価を含む)

○学校行事において、教職員が連携して計画的に準備・実施することができた。

○ICT環境が改善し、タブレット端末・大型ディスプレイを積極的に活用した授業を展開し、生徒の回答の集約や提示等、より効率的な学びにつなげることができた。

○いじめ防止対策委員会を計画的に実施し、いじめの認知から対応、見届けまで組織的に対応することができた。

○教育相談において、各担任・保護者・相談室・保健室・SC・SSWとの連携を活かし、個に応じた指導・支援を展開できた。

○管理職・衛生推進者と連携し、会議室・研修室・職員室等の整備を学校全体で行い、効率的な職場環境を整えることができた。

●あいさつ運動から更に踏み込み、生徒が進んで取り組む「爽やかなあいさつができる栄中」を目指す。

6 次年度の改善策

●校務分掌の内容を精査し、業務量や難易度に応じた区分けを行い、その共通理解のもとで担当者を決定し、特定の教職員に負担が集中しないようにする。

●委嘱発表に向け、学校全体として、研究テーマや具体的な目標・柱についての共通理解を図り、自己肯定感・自己有用感を育む授業展開を実践する。

●教育相談における支援が必要な生徒について、丁寧な情報共有に努めると共に、相談員・SC・SSWとの連携を深めながら個々の状況に応じた対応を行う。

●朝読書の時間を確実に実施して生徒の情操教育を行う。

●朝清掃等の機会を活かして、学校全体の衛生環境を向上させる。特に専門委員会を活用し、清掃のない日の環境整備に努める。

●学校のホームページや学校便り等を活用し、学校における生徒の取組を発信する。学年ごとの取組については、学年便りを通して生徒の活動状況を発信していく。

●教職員から生徒に積極的にあいさつすることの重要性を共有し、進んであいさつができる雰囲気学校全体で醸成していく。